様式第２号（第９条関係）

令和 8 年 2 月 4 日

尾花沢市議会議長　殿

会派名　市政研究会

代表者（無会派議員）名　　青野　隆一

# 調　査　研　究　報　告　書

次のとおり政務活動事業を実施しましたので報告します。

| | |
|---|---|
| 事業名 | 調査研究先進地視察 |
| 期　日 | 令和８年１月１３日（火）　～　１月１４日（水） |
| 主な利用交通機関 | JR 新幹線、タクシー |
| 実施場所 | ①1/13　富山県高岡市役所<br>②1/14　富山県富山市まちなか総合ケアセンター |
| 調査研究内　容 | ①　花笠の生産を行っている本市同様、伝統工芸品の菅かさづくりを行っている高岡市を視察し、本市の花笠の保存や支援策立案の参考にできる担い手確保策や販売戦略などの事例を学んだ。<br><br>②　同一施設内で子供から高齢者までの健康づくりを支援できる体制を整えている富山市を視察し、本市にお切れ目のない健康づくり支援策の立案や、既存施設の利活用のための知見を得た。 |
| 参加者 | 青野　隆一、伊藤　浩、鈴木　由美子、土屋　範晃 |

※添付書類：所感等を任意様式にまとめ添付する

## （２）伝統工芸の保全と継承策について

①菅笠に対する支援制度（技術や補助など）

高岡市としては、「菅笠づくり後継者育成講座」について広報で募集をしたり、受講料については無料としている。また、越中福岡の菅笠聖作技術保存会としては、「笠骨職人育成事業」（市の講座の修了生向け）を開催し、後継者に対しては市から毎月３万円の継承者手当が支給される。

②技術継承のための課題

副業の名残りのためで賃金単価が安いため、後継者育成講座終了後、菅笠の販売価格は１万円程度であり、菅笠聖作だけでは生活できない。制作には２４時間ほどかかる。

③伝統工芸を取り入れる取り組み

学校教育や地域学習に、コースターやミニ菅笠づくりを行ったり、菅笠を使用した踊りを創作したりする取り組みを行っている。

## （３）担い手の確保や産業振興に向けた取り組み

①生産者同士のネットワーク

各生産者が、菅笠聖作技術保存会や菅笠振興会など活動に関わっており、団体を通して生産者同士の情報交換などが行われている。

②菅笠を利用した観光コンテンツ

高岡御山車祭などの伝統行事と連携して菅笠を使用したり、菅笠づくりの実演やミニ菅笠製作体験を実施している。

③市の総合計画に菅笠づくりの位置づけ

高岡市総合計画第４次基本計画の地域産業の競争力強化に菅笠を位置付けている。また、菅栽培者や製作技術者が減少の一途をたどっているため、製作技術や存続に向けて菅笠の保全対策を行っている。

その後、2015 年に越中福岡の菅笠製作技術の後継者として修業を開始し、菅笠製作技術保持者に認定された中山煌雲さんの工房を訪れた。彼は、菅の栽培から笠の製作・販売まで、すべてを一貫して行う唯一の菅笠ブランド「煌雲」を立ち上げ、伝統的な菅笠製作はもちろん、作家としての作品製作のほか、近年は他業種とのコラボレーションを積極的に行っている。伝統を守りながら新しい可能性を追求する中山さんの姿勢からは、伝統工芸の未来への希望が感じられた。

# 令和７年度市政研究会政務調査報告

市政研究会　青野　隆一
鈴木由美子

私たち市政研究会では、令和８年１月１３日～１４日の二日間、富山県高岡市と富山市において政務調査を実施しましたので報告いたします。

## ❶視察先　富山県高岡市福岡庁舎

**日　時　令和８年１月１３日（火）13：30～16：00**
**テーマ　菅笠の生産や文化の伝承を目的とした振興策について**

越中福岡の菅笠は、４００年以上前に河川の氾濫で沼地ができ、質の良い菅が自生し菅笠づくりに発展したと伝えられている。明治時代には年間３００万枚の生産がありましたが、現在では約３万枚程度と減少したが、全国シェアの９割を占めている。菅笠の種類はさまざまあり、農作業や民踊、祭礼に使用されている。平成２１年３月に国の重要無形民俗文化財に、平成２８年４月に日本遺跡に指定された。しかし、スゲの生産者、菅笠づくり職人等の後継者不足や、高齢化などが顕著になっており、師弟制度や職人育成講座等を行い、後継者育成に努めている。日本の菅笠を次世代に残すため、菅笠保全に向けた総合的な取り組みを行っている。

### （１）産業の現状と課題について

①菅笠づくりの主要な生産者数
　生産者約８５名（笠骨１０名笠縫い７５名）
　菅笠問屋　３軒　菅笠振興会　菅笠作家
②担い手の年齢構成、後継者不足対策
　大半が７０歳以上であり、笠骨職人の数が特に少ない。市では、国や県の支援を受けて、『菅笠づくり後継者育成講座（笠骨づくり・笠縫い）』を開催し、講座の修了者が『越中福岡の菅笠製作技術保存会員』として、笠骨職人育成事業に取り組んでいる。
③現在の主な販路
　菅笠振興会や菅笠作家によるオンライン販売や、全国各地から祭事用の注文が継続的に見込まれる。
④原材料（スゲ）の確保や品質管理に対する課題
　生産者の多くが７０代以上となり、すべて手作業で猛暑時の作業もあるため、平成２８年度８反歩あったが、令和７年度には１.６反歩まで減少している。

【考　察】

本市の花笠づくりと同じように、後継者不足や労働賃金の低さが大きな課題となっている。本市の場合は、全てシルバー人材センターに委ねられているが、高岡市の場合は、第４次基本計画の地域産業の競争力強化に菅笠を位置付けて、菅笠づくり後継者育成講座を広報で募集をし、受講料については無料としている。また、笠骨職人育成事業での後継者に対しては市から毎月３万円の継承者手当を支給するなど行政の後押しが制度化されている。また、中山煌雲さんの『製品を安売りしてはだめだ。全国の菅笠づくり同志で連携していく必要がある。』という言葉に大きく共鳴した。後継者が育つためには、高岡市の取り組みに学ぶことが多く、日本一の花笠踊りを残すためにも行政の後押しがもっと必要であると考える。

## ❷視察先　富山市まちなか総合ケアセンター

**日　時　令和８年１月１４日（水）10：00～12：00**

**テーマ　富山市まちなか総合ケアセンターの現地視察と全体概要について**

平成 20 年に当時の市長がコンパクトシティ化に取り組んできた。その中でも中心市街地の一丁目一番地である旧総曲輪小学校跡地の活用を重点とし、PPP の手法により、公共施設（地域包括ケア拠点施設）と民間施設（専門学校など）を一体的に整備して「総曲輪レガードスクエア」を平成29年４月に開業した。

全体工事費は約３０億円で民間が開発し、「富山市まちなか総合センター」を約11億円で市が購入。主な取り組みの内容は、１．子育て支援　２．在宅医療の推進　３．地域コミュニティの醸成である。建物内には、「まちなかサロン」「こども発達支援室」「病児保育室」「医療介護連携室」「まちなか診療所」「産後ケア応援室」がある。

特に「まちなか診療所」は民間医療機関の取り組みが難しいとされる在宅医療のみを行なっており、これこそ公的医療機関としての役目を担っていると感銘を受けた。また「産後ケア事業」が充実しており、産後や育児の不安を取り除く大きな公的サービスに力が入っていた。